

言葉の力

通称「ことちか」

令和7年11月26日発行
第7号
福島県教育庁義務教育課

学びの基盤となる「話すこと・聞くこと」

国語科の「話すこと・聞くこと」で学習する内容（話す、聞く、話し合う）は、子どもたちの生活の中で頻繁に行われています。学習場面においても、国語科だけでなく、全ての教科の学習で子どもたちが話す、聞く、話し合う機会は多く、「話すこと・聞くこと」は全ての教科の学びの基盤となっています。

本号では、この「話すこと・聞くこと」の指導に焦点を当て、その充実を図るためのポイントを紹介します。

「話すこと・聞くこと」の重点は「考えの形成」

◇「話すこと・聞くこと」の指導事項（小学校・中学校 共通）

- 話題の設定、情報の収集、内容の検討
- 構成の検討、考えの形成（話すこと）
- 表現、共有（話すこと）
- 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）
- 話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）

小学校、中学校ともに「話すこと・聞くこと」の指導事項は上記の5つです。ここで着目すべきは、話すこと、聞くこと、話し合うことの指導事項に「考えの形成」が位置付けられているということです。現行の学習指導要領では、全ての領域において自分の考えを形成する学習過程が重視されており、「話すこと・聞くこと」の指導においても、「考えの形成」は重要となります。

「話すこと・聞くこと」における「考えの形成」に関する指導を充実させたい！

ここでは「話すこと・聞くこと」における「考えの形成」に関する指導を充実させるためのポイントについて紹介します。

「話すこと・聞くこと」の学習においては、「紹介や説明、報告、提案、主張など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動」「質問やインタビューをして情報を集めたり、それらを発表したりする活動」「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う（議論する）活動」といった言語活動が設定されています。

しかし、言語活動を行うこと自体が目的ではないことに注意が必要です。言語活動自体が目的になってしまふと、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が曖昧になってしまう可能性があります。「言語活動を行えばよい」というわけではなく、「その言語活動を通して身に付けるべき資質・能力を育てる」ことを意識して単元を構想しましょう。

ここで大切なのが、活動の前後で「自分の考え」を明確にし、さらに深めることです。



自分の考え（意見）を明確にする。



話す・聞く・話し合う活動
(アウトプット・インプット)



自分の考え（意見）を再構築する。

「話すこと・聞くこと」の言語活動を行う前に「自分の考えを明確にしておくこと」だけでなく、活動の後に「活動を通して、自分の考えを再構築すること」が重要です。そうすることにより、子どもたちの活動に対する目的意識を高めるとともに、「自分の考えが相手に伝わったのか」「友達の考えのどこがよかったです」「話し合いを通して自分の考えがどう深まったり広がったりしたのか」等が明確になり、新たな学びへつながっていきます。

《教師の働きかけの例》



小学校



中学校

- 自分の考えが伝わったかどうか、友達と感想を伝え合いましょう。
- 友達の考えと違うところはあったかな。友達から聞いたことを基に、自分の考えをもう一度見直しましょう。
- 話しをしてみて、自分の考えは深まったり、広がったりしたかな。もう一度考えをまとめましょう。

- 聞き取ったことと自分の考えを比較してみよう。その共通点や相違点を踏まえて、もう一度自分の考えをまとめよう。
- 話しの中で、どのような意見が出されただろうか。それらの意見を基に、もう一度自分の意見をブラッシュアップしてみよう。

「話すこと・聞くこと」の学習で身に付けた資質・能力は、学習したことを繰り返し用いたり、使いこなす機会を多くもったりすることによって、より確実に身に付いていきます。国語科だけでなく他教科や教育活動全般でも発揮できるように意識して指導しましょう。

～キビタンシート はじめました～

令和7年9月より、県内の小・中学生対象のデジタルドリル「キビタンシート」を利用することができますようになりました。国語科では〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力〕の3領域「基礎・基本」となる力を高めるための問題に取り組むことができます。現在は、2学期に学習する内容に取り組めるようになっていますが、今後、1・3学期の内容もアップロードする予定です。

すでに、多くの学校で取り組んでいただいている、全教科での学習回数は40,000回以上、取り組んだ児童生徒は7,000名以上となっています。

(令和7年11月現在)

キビタンシートを使うには

Google chrome から、個人のFCSアカウントでログインし、表示されるタブ「福島県教育ダッシュボード」から「キビタンシート」のページに入ってください。



【キビタンシートの特長】

- 短時間（1シート10分程度）で取り組める内容になっているため、ちょっとした時間で気軽に取り組ませることができます。また、何度も繰り返し取り組ませることもできます。
- 小学1年生から中学3年生までの学習が可能です。児童生徒が予習・復習をしたいときにも活用できます。（中学生が小学校の問題で復習をしたり、小学生が中学校の問題にチャレンジしたりすることも可能です。）
- 先生方はダッシュボード（教師用）で、学級や学校全体の学習状況を確認することができます。また、児童生徒はダッシュボード（子ども用）で、自分の学習履歴を振り返ることができます。



期間中の利用状況

利用した人数

3人

国語

3人

取り組んだドリルの数

54.7 ページ

1人あたり（平均）

733 ページ

244.3 ページ

ドリルの数（国語）

ドリルの数（算数・数学）

ドリルの数（英語）



ダッシュボードサンプル（教師用）



ダッシュボードサンプル（子ども用）

キビタンシートは、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学・英語について、全ての学年の問題を網羅しています。